

第88回

「阿久悠劇場」主演スターを輩出した『スター誕生!』

森昌子、桜田淳子、山口百恵とい  
えば、日本テレビのオーディション  
番組『スター誕生!』が生んだスタ  
ーであり、その番組誕生の陰には、  
売れっ子作詞家・阿久悠の力が大き  
く働いていました。

ガラス張りの選考を通して、視聴  
者とともに既存のレコード会社から  
送り出される歌手とは違う光を発す  
る「原石」を発掘してこうとする  
姿勢は、阿久自身が審査員として顔  
を出し、笑顔を見せずに忌憚なく厳  
しい評価を下す、という態度にも現  
われていました。

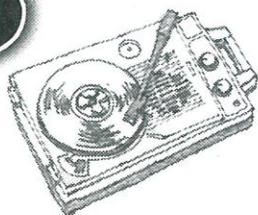
しかし、原石が磨かれ世に出た後  
は一転し、森昌子に対しては『せん  
せい』から始まるシングル盤7枚目  
までのB面1曲を除き、全13曲の歌  
詞を提供して支援、歴代最高のプラ  
カード数を獲得し森昌子の翌年にデ  
ビューした桜田淳子には、最初のア  
ルバムに収録する全12曲を阿久自ら  
が書き下ろします。そこには番組の  
生みの親である責任者としての務め  
を感じさせるものがありました。そ

の後も番組は、岩崎宏美、新沼謙治、  
ピンク・レディーなどなど、阿久作  
詞のデビュー曲によって次々とスタ

名曲カルテ

昭和歌謡と  
いままで

堀井六郎  
絵 松本浦



ーを輩出しましたが、やがて隆盛を  
誇っていた阿久作品にも翳りが見ら  
れ、自らその翳りを察したかのよう  
に、昭和56年12月、阿久は10年続け  
ていた『スター誕生!』の審査員か  
ら退きます。

広告会社籍時や放送作家時代を  
通して「企画書作成」なら誰にも負  
けないと自負していた阿久が同番組  
企画時にめざしたものは、大学進学  
で上京して間もない頃に観たであろ  
う、ジュディ・ガーランド主演の映  
画『スタア誕生』を模した番組名で  
あり、映画青年だった頃の夢、「プ  
ロデューサーと脚本家」の仕事を取  
る世界で再現させてみることでした。  
時代が令和に変わるとともに亡く  
なったジャニー喜多川は、平成の世

に「歌って踊れるアイドル・グルー  
プ」の歌とダンスを通して舞台ミュ  
ージカルの楽しさを教えてくれまし  
た。阿久が持ち込んだのは映画で  
した。

昭和45年以降の昭和後期、阿久は  
お気に入りの映画の知識をふんだん  
に生かしながら、歌謡詞の世界に映  
像と物語を注ぎました。

たかが数分の歌の世界にもかかわらず、  
阿久作品からは長編映画のよ  
うな感動を覚えますが、そこからは  
2時間の映画作品に負けないだけの  
感動を盛り込むことができるという  
阿久の確たる自信が見えてきます。

聴く者は、都はるみや石川さゆり主  
演のメロドラマを思い描いたり、フ  
インガー5やピンク・レディーが活  
躍する少女少女向けの活劇映  
画の気分を味わうことができ  
ました。

かつて石坂洋次郎は小説  
『光る海』の連載時、すでに  
映画化が決まっていた主演の  
吉永小百合を想定して筆を進  
めていたそうですが、桜田淳  
子の初期のアルバム収録曲は、  
阿久が桜田主演の連作映画の  
シナリオを綴るように書き上  
げていたものかもしれません。